

スコアシート		基本設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.8
Q1 室内環境								2.9
1 音環境				2.6	0.15	2.1	1.00	2.4
1.1 騒音				3.0	0.40	3.0	0.40	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	1.00	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
1.2 遮音				3.0	0.40	1.9	0.40	
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				-	-	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	1.0	0.20	
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境				1.6	0.35	2.0	1.00	1.7
2.1 室温制御				2.2	0.50	3.0	0.50	
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能				3.0	0.25	3.0	0.43	
4 ゾーン別制御性				1.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式				1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境				3.1	0.25	3.8	1.00	3.4
3.1 昼光利用				3.6	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率		居室の昼光率1.9%		4.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.30	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御				3.0	1.00	3.0	1.00	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		ベッド単位での照明制御が可能		3.0	0.25	5.0	0.25	
4 空気環境				4.4	0.25	4.1	1.00	4.2
4.1 発生源対策				5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質		F の建材をほぼ全面的に採用し、低VOCの建材も全面的に採用している		5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.0	0.30	2.6	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		居室の必要換気量の1/15以上		3.0	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	1.0	0.33	
4 給気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御		館内は全館禁煙、屋外に喫煙スペースを設ける		5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.0
1 機能性				3.3	0.40	4.2	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		個室13.27㎡/床以上		3.0	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観				3.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		外部に露出する金属材料はアルミを採用		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		共用部通路において、独立系統の清掃専用コンセントを15mピッチで配置している		4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.31	-	-	3.1
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管:HIVP、給湯管:HTVP、屋内排水:VP、Eは不使用		5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			4.0	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備	換気設備の重要度に応じた系統区分し、吊配管対策を施す	4.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	節水器具にエコまち法対象製品を採用、配管の系統を用途ごとに区分している	4.0	0.20	-	-	-
3	電気設備	非常用電源を備えている	4.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	メタルケーブル(電話)、光ケーブル(光情報・インターネット等)など通信手段の多様化を図り、NTT局と別に事業者が選定する電話局用として予備管を用意	5.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			2.1	0.29	2.0	1.00	2.1
3.1 空間のゆとり			1.4	0.31	1.0	0.50	
1	階高のゆとり		1.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		2.0	0.40	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物の熱負荷抑制		BPIm=0.730	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR換算値=25%	4.0	0.30	-	-	4.0
		集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)	4.0				
		集合住宅の評価					
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマ内蔵水栓の他、節水型便器採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.63	-	-	3.2
2.1	材料使用量の削減		-	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.26	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	陶磁器タイルをエントランス床、浴室床・壁、地域交流室床に使用	3.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上材の採用	4.0	0.26	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.22	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用	TRPR法の対象物質を含有しない建材種別が2つある	4.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率=85%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	自転車置場・駐車及び管理用車両(身障者用車両)の駐車スペースの確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	